

平成 22 年 5 月 6 日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19730151

研究課題名 (和文) 両大戦間期の LSE における経済学の生成と発展

研究課題名 (英文) The Acceptance and evolution of economics in 1930' s LSE

研究代表者

木村 雄一 (KIMURA YUICHI)

埼玉大学・教育学部・准教授

研究者番号：80436740

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済学説・経済思想

キーワード：LSE、ロビンズ・サークル、ロビンズ、カルドア、ヒックス、両大戦間期

1. 研究計画の概要

申請者の研究の全体構想は、設立時から現代に至るLSE (ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス) 研究である。LSEは現代経済学の生成と発展を考量する上で重要な研究対象である。なぜなら、LSEは、1895年にウェッブ夫妻やフェビアン協会によって設立された小規模な学校であったにもかかわらず、ベヴァリッジが学長に就任した1919-1937年に大学規模が発展して、1930年代には、ロビンズ、ハイエク、カルドア、ヒックス、ラーナー、コースらの「ロビンズ・サークル」を生んだからである。戦後においても、LSEは、再びロビンズの下に、ボーモル、ピーコック、ハーン、ミード、森嶋らが集ったり、多数のノーベル経済学賞受賞者を輩出したりするなど、現代経済学の形成に重要な役割を果たしている。本研究は、こうしたLSEの意義を重視して、経済学の生成と発展に重要な役割を果たした「両大戦間期のLSE」に光をあてる。

本研究は、具体的に以下の七つのトピックに分けられる。

- (1) LSEにおける大陸経済学の受容と展開—「ロビンズ・サークル」の役割
- (2) LSEとケンブリッジ—対立と協調、LSEのケンブリッジ疎開
- (3) LSEにおける「ケインズ革命」の群像—カルドア、ヒックス、ラーナー
- (4) 「プラント・グループ」(プラント、コース)による企業組織・企業理論の研究
- (5) 国際的な経済学研究機関—講義科目、LSEの施設拡張、招待講演、特別講義の調査
- (6) Academic Assistance Councilの創設—ベヴァリッジ、ロビンズ、ミーゼスによるユダヤ学者救出
- (7) LSEの知性史—ドールトン、キャナン、ロビンズ、ラスキ、カルドア、ヒックスらの知的交流

2. 研究の進捗状況

上の(1)～(7)についての研究課題を順調にこなし、研究報告や論文発表、著書の出版などを行っている。(1)(2)(3)については、既存の先行研究に言及しつつ、入手可能な資料を詳細に研究することで報告論文としてまとめ、国内学会報告や国際学会報告を経て、幾つかの研究論文としてまとめることができた。また(4)(5)(6)(7)

については、LSE やケンブリッジへの出張を通じて、また内外の図書館の一次資料を利用することで、幾つかの研究論文や著書としてそれらの成果をまとめることが出来た。特に平井俊顕編『市場社会論のケンブリッジ的展開』（日本経済評論社、2009）に掲載した「ロビンズ・サークル——自由主義陣営からの反撃」ならびに『LSE 物語』（NTT 出版、2009）においては、①～⑦の研究成果を満遍なく含むことが出来た。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

（理由）図書を4件出版したが、そのうち『LSE 物語—現代イギリス経済学者たちの熱き戦い』（NTT 出版、2009年）として、本研究の包括的内容を提示することが出来たから。日本経済新聞（2009年8月9日）ならびに毎日新聞（2009年7月5日）において好意的に書評された。前者は江頭進教授（小樽商科大学）、後者は伊東光晴名誉教授（京都大学）である。

4. 今後の研究の推進方策

本年度（平成22年度）は、本研究の最終年にあたるため、これまでの研究を土台としてフォローできていな領域を研究しつつ、当該研究全体のまとめ・報告書を作成する予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

1. 2008年 3月 “The foundation and development of the LSE in late Victorian Britain”.

Study Series No.60 Center for Historical Science Literature. Hitotsubashi University

2. 2009年 3月 「ロビンズ・サークル」『進化経済学会論集第13集』1-18頁.

3. 2010年 3月 Early Kaldor on the theory of the firm: 1934-38. Journal of Saitama University, Faculty of Education, Commemorative Issue for the Retirement of Professor Hiroaki Shirai Vol.59, No.1

〔学会発表〕（計 3 件）

1. 2007年 3月 「初期カルドアの不均衡経済学」進化経済学会第11回全国大会、

京都大学.

2. 2009年 3月 「ロビンズ・サークル」進化経済学会第13回全国大会、岡山大学.

3. 2010年 3月 “The ‘Robbins Circle’ of the London School of Economics and Political Science: the Liberalism group’s counterattack of Laissez-faire against Cambridge” The 14th annual conference of the ESHET: The Practices of Economists in the Past and Today, 25-27 March 2010（アムステルダム）.

〔図書〕（計 4 件）

1. 2009年6月『LSE 物語—現代イギリス経済学者たちの熱き戦い』（NTT 出版）

2. 2009年7月「ロビンズ・サークル—自由主義陣営からの反撃」平井俊顕編『市場社会論のケンブリッジ的展開—共有性と多様性』（日本経済評論社）

3. 2007年 4月 「新厚生経済学—現代理論の到達」小峯敦編『福祉の経済思想史家たち』ナカニシヤ出版、218-228頁.

4. 2010年 5月 「新厚生経済学—「科学」としての経済学」小峯敦編『福祉の経済思想史家たち（第三版改訂版）』ナカニシヤ出版、232-243頁.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

なし